

\\ 特集 \\
歴史が導く
未来の鍵
成功のカギ

創業
80
周年

株式会社タクテック

高松市香西南町277番地1
「TEL」08718813691
「FAX」08718813695

どんなメーカーの建設機械にも対応できる高い整備力と、新しい挑戦を怖れない開拓精神で、顧客の声に応え続けてきたタクテック。取締役会長・詫間行芳さんと、三代目に当たる代表取締役・雄介さんに、思いを伺いました。



ホームページ



整備力は四国トップクラス。
日々違う挑戦を繰り返し
階段を一步一步上るように
成長してきた80年の軌跡。



取締役会長
詫間 行芳 さん



代表取締役
詫間 雄介 さん

顧客に育てられた80年

本津川沿いに広大な敷地を持つタクテックは、建設機械の修理・メンテナンス・販売を主業に、多くの建機メーカーの指定工場として幅広い製品を取り扱っています。各社の建機に網羅的に対応できる企業は全国でも珍しく、同社の整備技術の高さがうかがえます。整備士は四国最多級の22人、各自サービスカーを持ち、顧客が困った時にスピーディーに対応できるのも強みの一つ。舗装・建設機械、造船業向け機械、環境機械、製造業向け機械の修理販売のほかに技能講習・運転技能講習・検査業務なども広く手掛け、特定のジャンルに依存しない安定した経営を確立しています。

創業者は現会長・詫間行芳さんの父・政義さん。造船業に従事し、復員後に三豊市詫間町で鉄工所を創業したのが、戦後間もない1946年のこと。当時は欧米の建機が主流で国内に販売サービス網がなく、近隣から「舗装機械を直してもらえないか」という依頼が舞い込んだのが最初

の転機でした。

以来、舗装機械の補修ニーズに応えるかたわら、ブルドーザーやショベルカーなど対応できる機械の種類も少しずつ増えて、日本経済の成長目覚ましい昭和40〜50年代に大きく飛躍。高松に移転後は工場や設備の刷新が進んで規模も拡大し、造船業用の搬送機械といった新しいジャンルの開拓が進みました。行芳さんは「我々がやりたいことを追求したというより、お客さまの声に添えて、階段を一步一步上るように育てていただき成長した結果です」と振り返ります。

挑戦するから面白い！

鉄工所時代のものづくりスピリットを受け継ぎ、できそうにないことに直面した時も創意工夫で乗り越えてきた同社。「どんな依頼も、当社ならできると思って声を掛けてくださるのだから、まず断りません。もちろん大変ですが、初めてのことは面白いし、うまくいった時の喜びも格別。社会の要請に応えるのは当社の気風といえます」と行芳さん。

この精神は、2020年に社長に就任した雄介さんも受け継いでいます。整備も営業も新しいやったことのないことに挑戦している時間こそが、自分自身が成長している瞬間であり本来の仕事のあるべき姿である。日々違うことにトライして年月とともに成長していくキャリアモデルこそ、奥深いと思っています」。

大学を卒業した時点では道を決めかね、家業を継ぐことになっても役立つ経験を積もうと、地元金融業で香川の経済や経営に深く触れた雄介さん。入社を決意したのはリーマンショックの頃で、機械の販売が伸び悩んでいました。当時の売上を「10年で倍にする」目標を打ち出し、それまでなかった営業事業部を立ち上げて営業強化に注力。販売拡大が長期的なメンテナンスニーズにもつながり、現在につながるバランスのいい成長を実現しました。「父は生粋の理系技術者目線、私は金融出身の営業目線で、それぞれ違う角度から会社に貢献できるのがよかったのかもしれないね」と雄介さん。

社長就任後も大幅な路線変

会社は「人」がすべて

技術者の成長は経験件数に比例する、と考える同社では、技術者がじっくり腕を磨ける環境を重視し、社員を大切に社風を早くから築いてきました。充実した福利厚生や教育支援もあいまって、高い社員定着率を誇ります。

かつては「見て覚える」職人の世界だった業界も、ICTやDX化が進む今は、むしろ若手の方がデジタル面で強みを発揮することも多くなったそう。指導に当たるベテラン側の意識改革も含めて、一方的な上下関係ではなく対等に教え合う風土をつくらうとしています。

「会社は人がすべてです」と力を込める雄介さんは、「私自身が体育会系のノリが苦手なので、垣根のないフレンドリーなコミュニケーションを重視します。失敗は成長と成功のもと、一番の失敗はチャレンジしないこと、という意識をみんなで共有して、お客さまの信頼に応えたい」と語りました。

詫間社長の モーニングルーティーン

朝の時間割

- 6:20 起床
- 6:30 ゆっくり新聞を読みながらヨーグルトを食べる。寝過ごして時間がない時もネットでニュースを確認
- 7:00 娘と一緒に家を出る。
- 7:08 丸亀に通学する娘を高松駅で見送る。
- 7:10 お気に入りのラジオ番組で経済ニュースをチェック。
- 7:20 会社に着。8:00の始業までメールのチェックや打ち合わせでウォームアップ。